



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2024年3月期第3四半期 スモールミーティング

2024年2月7日

SWCC株式会社

本日のアジェンダとスピーカー

1. 第3四半期決算の概要



代表取締役社長・取締役会議長
グループCEO
長谷川 隆代

2. 電装・コンポーネンツ事業の 今後の成長戦略



常務執行役員
電装・コンポーネンツ事業セグメント長
山村隆史

1. 2023年度 3Q決算概要と通期計画

2023年度 第3四半期決算 概況

経営環境

- 経済活動の正常化や賃上げの加速、緩和的な財政・金融政策などが下支え。
- 不安定な国際情勢や円安を背景に原材料・エネルギー価格等が高止まり。
- 自動車関連市場では、挽回生産が本格化。
- 電線業界においては、電線全体の需要は前年同四半期より増加。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同四半期より微増。

売上高

当期事業計画は例年よりもやや下期偏重の計画。3Q実績は**前年同四半期比増収**。

【主な事業分野別状況】

エネルギー・インフラ・・・想定以上に建設および電力工事件名が3Qに集中。

自動車・・・・・・・・xEV向けは一部需要回復も産業機械向け一般汎用製品の需要が低迷。

産業用デバイス・・・・オフィス向け需要回復も、ワイヤハーネスは国内家電需要が低迷。

営業利益

想定以上に建設および電力工事件名が3Qに集中したことにより、**前年同四半期比増益**。

これを受けて、通期計画を上方修正。

2023年度 第3四半期 連結業績 P/L

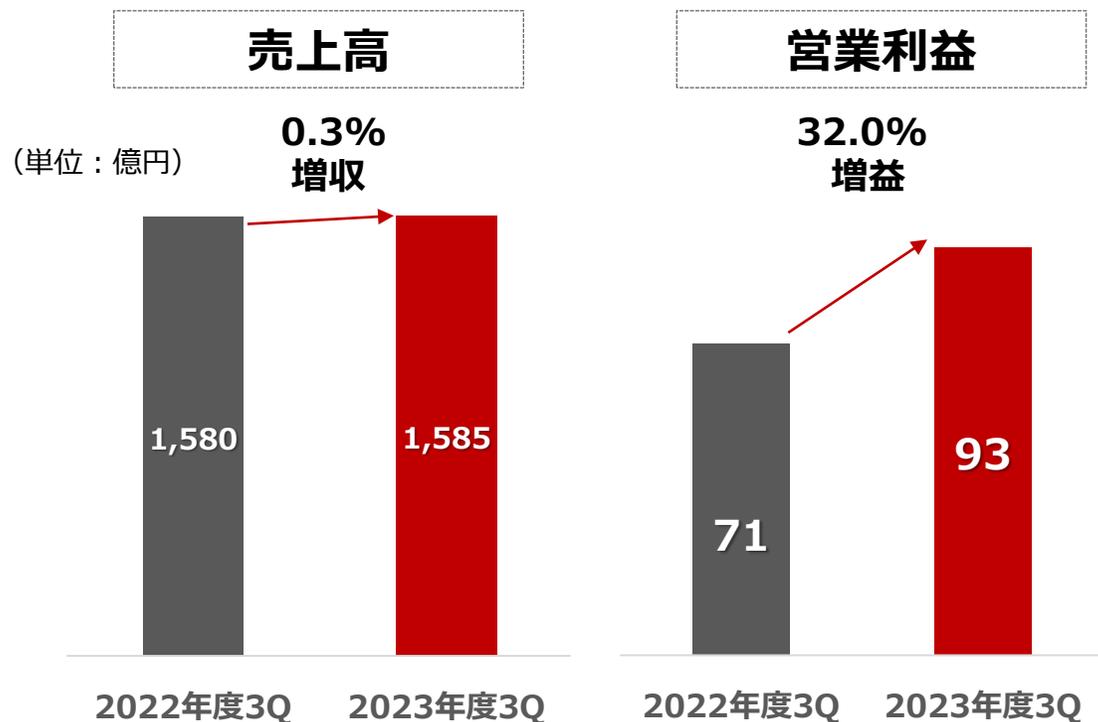
好調な建設および電力関連の業績を見据え、**通期利益計画を上方修正**。営業利益・経常利益ともに過去最高益を見込む。

(単位：億円、%)	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年同 四半期比	進捗率 %	2023年度 通期計画 (修正前)
売上高	1,580	1,585	5	74.8%	2,120 (2,150)
営業利益	71	93	23	77.9%	過去最高益を予定 120 (115)
営業利益率%	4.5%	5.9%	1.4%	—	5.7% (5.3%)
経常利益	69	92	23	77.8%	過去最高益を予定 118 (115)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	64	63	▲1	76.2%	83 (75)

2023年度 第3四半期 決算のポイント

3Q前年同四半期比

産業機械および家電向けの需要が低迷も、**建設および電力関連事業好調**により**増収・増益**



3Q進捗率

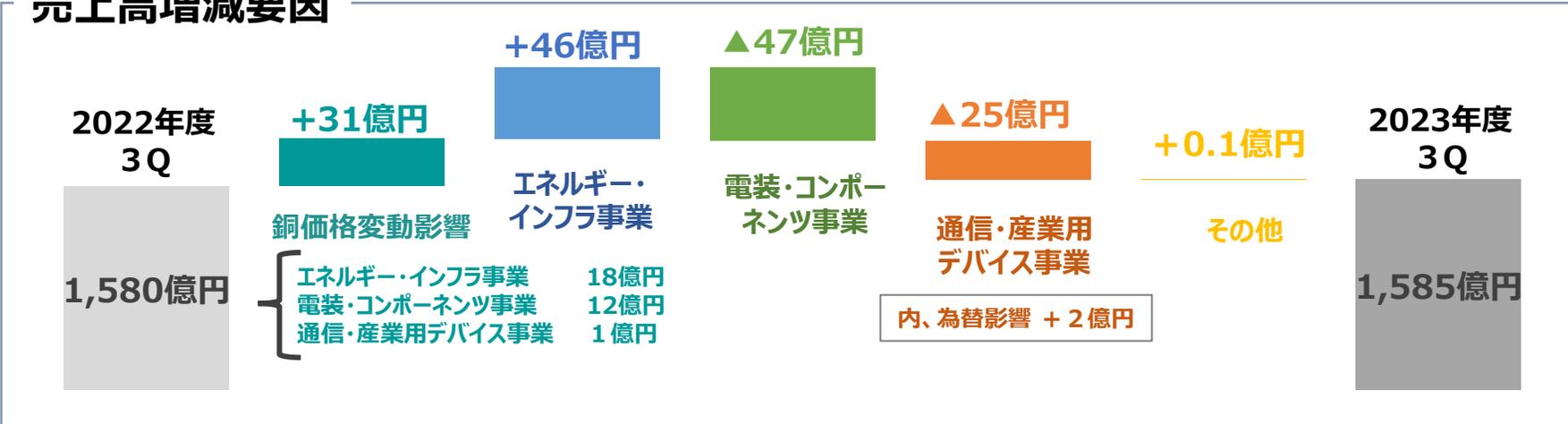
売上高および営業利益とも過去平均進捗率よりも**好調に推移**。

(単位：億円)	通期計画※	FY19-22 平均進捗率	3Q進捗率
売上高	2,120	74.1%	74.8%
営業利益	120	73.8%	77.9%

※業績予想修正後の値

2023年度 第3四半期 増減要因 (前年同四半期比)

売上高増減要因

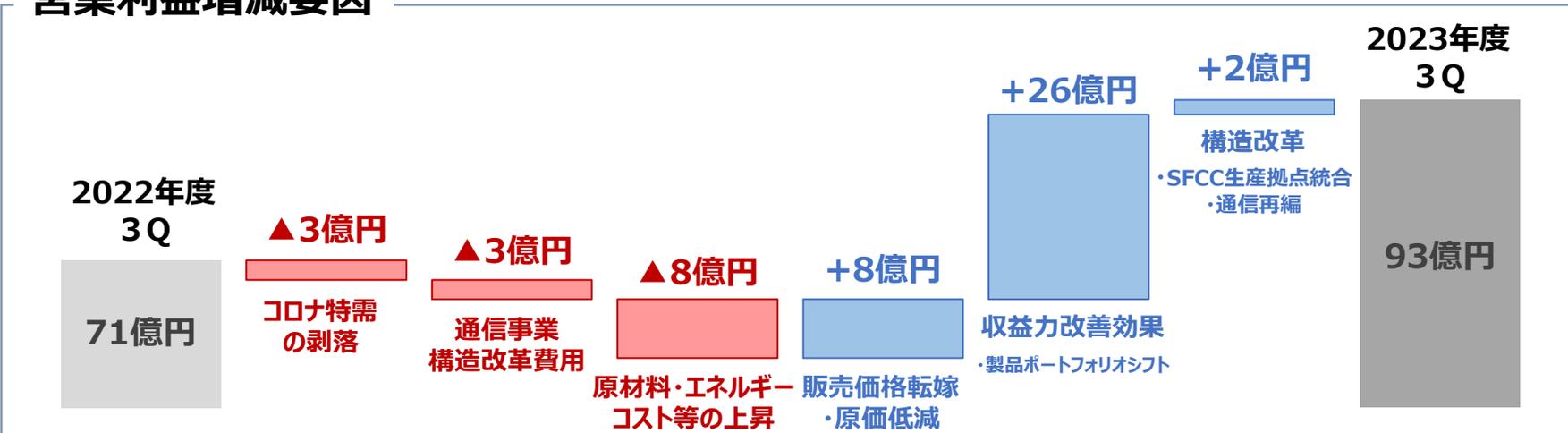


【増減要因】

1. 売上高
産業機械向け需要低迷およびコロナ特需の一部剥落も、**エネルギー・インフラ事業の3Qへの件名集中**により前年同四半期比増収。

2. 営業利益
原材料・エネルギーコスト等の上昇を販売価格転嫁・原価低減でカバー。通信事業の構造改革に伴う一時的な損失を計上するも、**収益性改善効果に加え、エネルギー・インフラ事業の3Qへの高収益件名集中**により前年同四半期比増益。

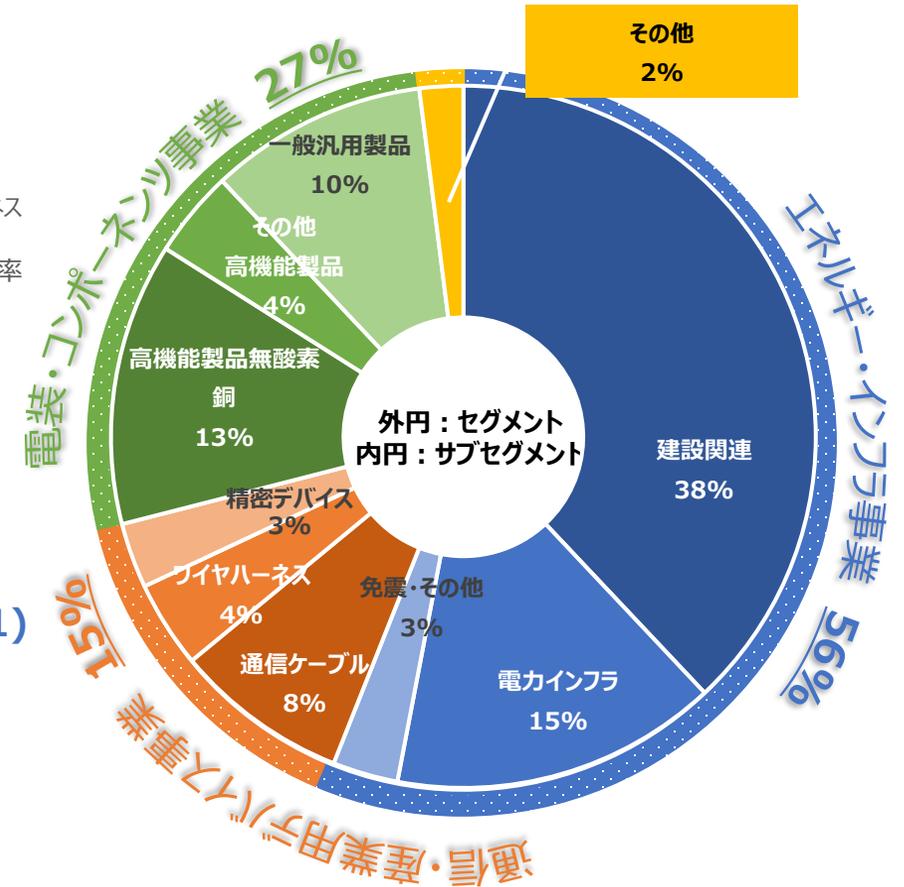
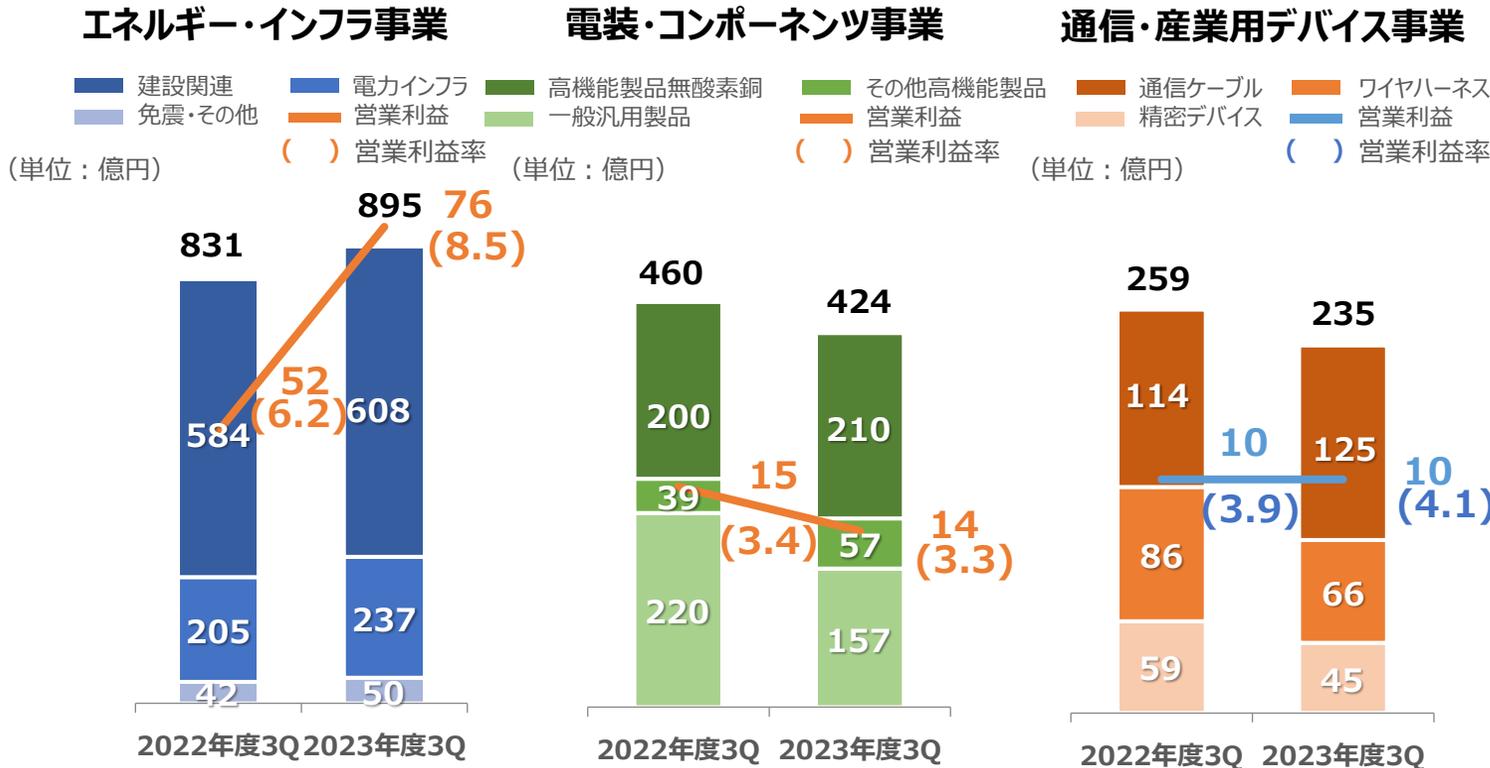
営業利益増減要因



2023年度 第3四半期 セグメント業績

産業機械向けおよび国内家電需要が低迷するも、**好調な建設および電力関連**が全体の業績を牽引。**xEV関連は一部需要回復**。

2023年度3Q実績 セグメント売上高比率

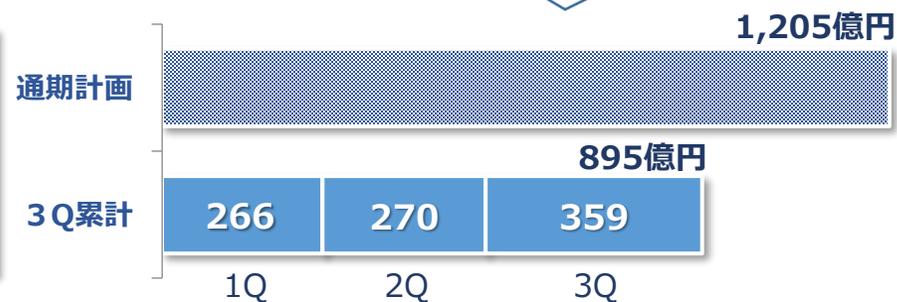


3Q進捗と通期計画達成に向けた取り組み

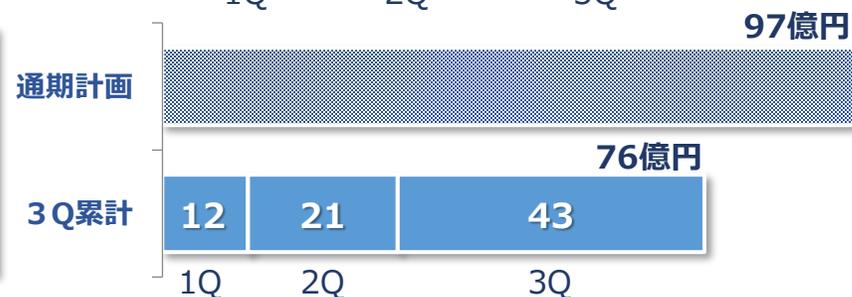
通期計画に対する3Q進捗

- + 要因
- 合併会社（被覆線事業）の製販統合による収益改善
 - 3Qへの高収益件名の集中
 - 販売価格見直しと原価低減の取り組み
- 4Q見通し
- 期初見通しのとおり下期偏重の電力工事件名や旺盛な建設需要を捕捉。過去最高益を目指す

売上高
進捗率
74.2
%



営業利益
進捗率
78.3
%



通期計画達成に向けた取り組み

◆ 合併会社（被覆線事業）へのDX導入による収益改善の促進



社給携帯で出荷情報や在庫状況を確認できる仕組みを導入。生産計画や在庫計画をリアルタイムに見直すことが可能に。

◆ SICONEX®増産計画

SICONEX



生産性向上、人員補強にて製造能力2倍が可能に

完工後の設備能力

増産投資中の設備能力 1.5倍



FY2023 — FY2024 — FY2025 — FY2026

3Q進捗と通期計画達成に向けた取り組み

通期計画に対する3Q進捗

- + 要因
 - xEV向け製品は一部需要回復
 - 重電向け一般汎用製品は引き続き堅調
- 要因
 - 産業機械向け一般汎用製品は低調
- 4Q見通し
 - xEV向け高機能製品（ヒータ線等）の需要が北米を中心に堅調

売上高
進捗率
74.4%



営業利益
進捗率
74.2%

通期計画達成に向けた取り組み

◆ xEV化の加速に伴い、熱マネジメントの必要性からヒータ線需要が増大
将来、1台2席から4席に増える需要を見越し対応



ハンドルヒータ シートヒータ バッテリーヒータ
熱源のない xEV車では、ヒータ線によりバッテリー消費量20%削減に...

◆ xEV市場の高機能巻線の需要回復に備え、生産革新ライン（低コスト+高環境性能）を導入

MI

高速焼付炉対応の
ワニスの開発

PI

最適製造条件の模索による
生産性・品質の最大効率化



線速
3倍

CO₂排出量
57%削減

エネルギー効率
2倍以上

設備導入コスト
25%削減

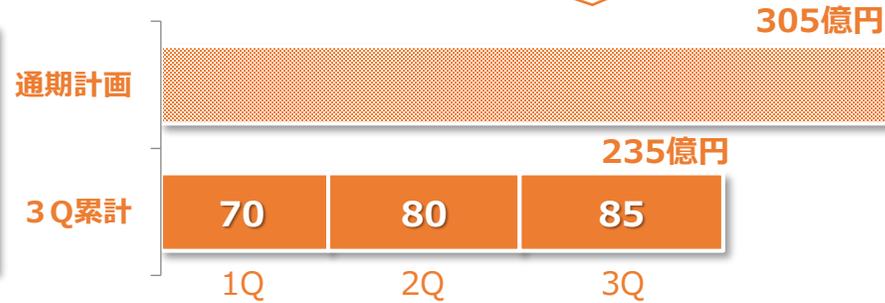
利益率改善
効果 2倍

3Q進捗と通期計画達成に向けた取り組み

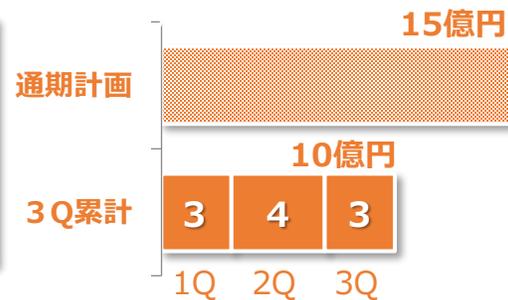
通期計画に対する3Q進捗

- + 要因**
 - 通信ケーブルの国内生産拠点再編効果と適正価格販売
 - 建設関連向け通信ケーブル需要の拡大
 - ADAS関連通信ケーブル事業の本格稼働
- 要因**
 - 中国・ベトナムの景気悪化と国内家電需要の低迷
- 4Q見通し**
 - 4Qに需要増が見込まれる通信ケーブル事業の収益拡大
- その他**
 - 光ファイバの製造工程見直しに伴う構造改革費用計上

売上高
進捗率
77.1
%



営業利益
進捗率
65.0
%



通期計画達成に向けた取り組み

◆ 通信ケーブル事業は、好調なFLANTEC®の需要を捕捉

建設関連



AI、IoTの活用促進による通信容量増大を受けてリプレイス需要拡大。

Cat.6A規格対応TPCC®
6A(10Gigaコイル)

ADAS関連



レベル4以上の自動運転を実現する高速通信ケーブル事業を本格稼働

車載用ツイストペアケーブル

◆ ワイヤハーネス事業は、事業環境の変化に合わせてビジネスポートフォリオシフトを実行（詳細スライド25ページ参照）

- ・ 中国合併会社2社設立（2024年1月以降始動）

競争力の強化

原価低減と品質向上

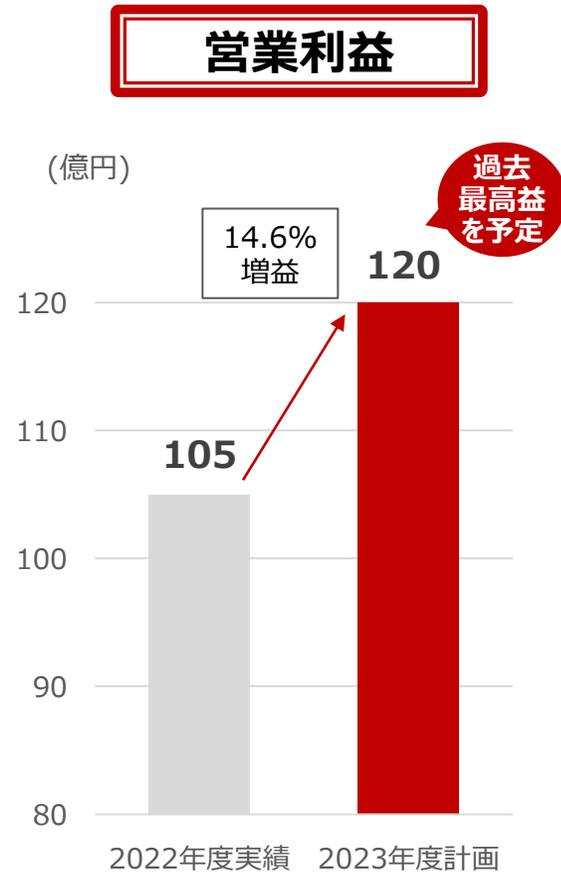
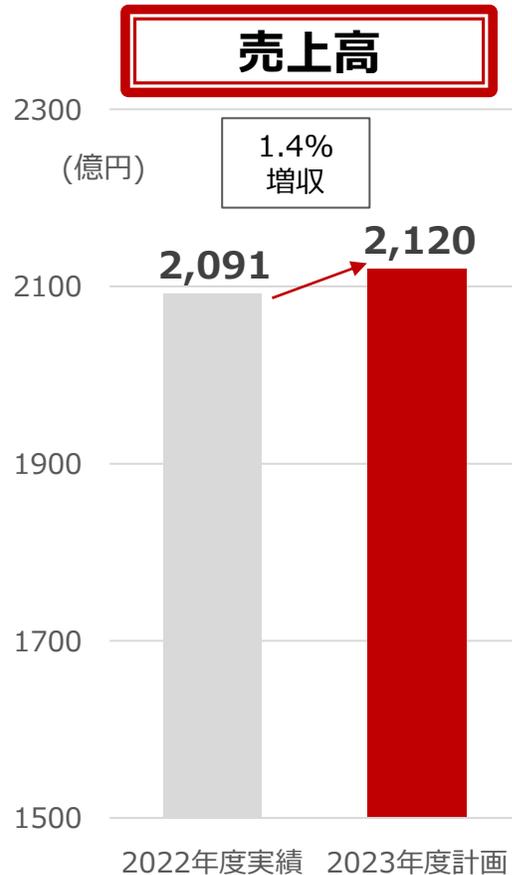
多角化展開

ADAS関連部品市場へ参入

◆ 精密デバイス事業の下期需要回復を取り込み拡販
・ 2024年度以降オフィス向けを中心に需要回復を見込む

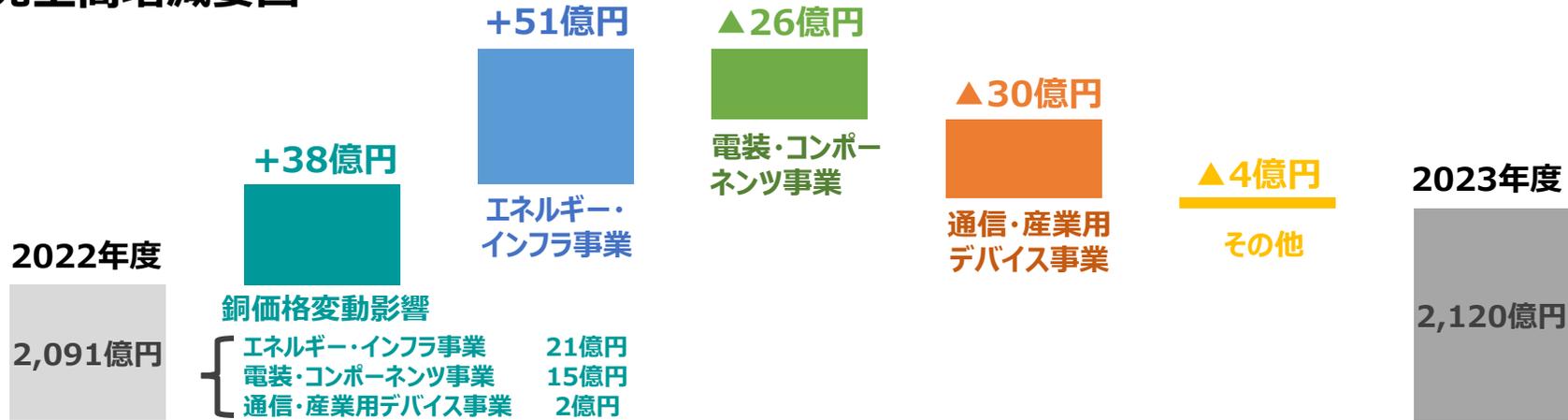
2023年度 通期業績計画（上方修正後）

堅調な建設および電力関連需要の取り込みと、各種収益改善施策により**増収・増益を計画**。株主還元は**増配予定**。

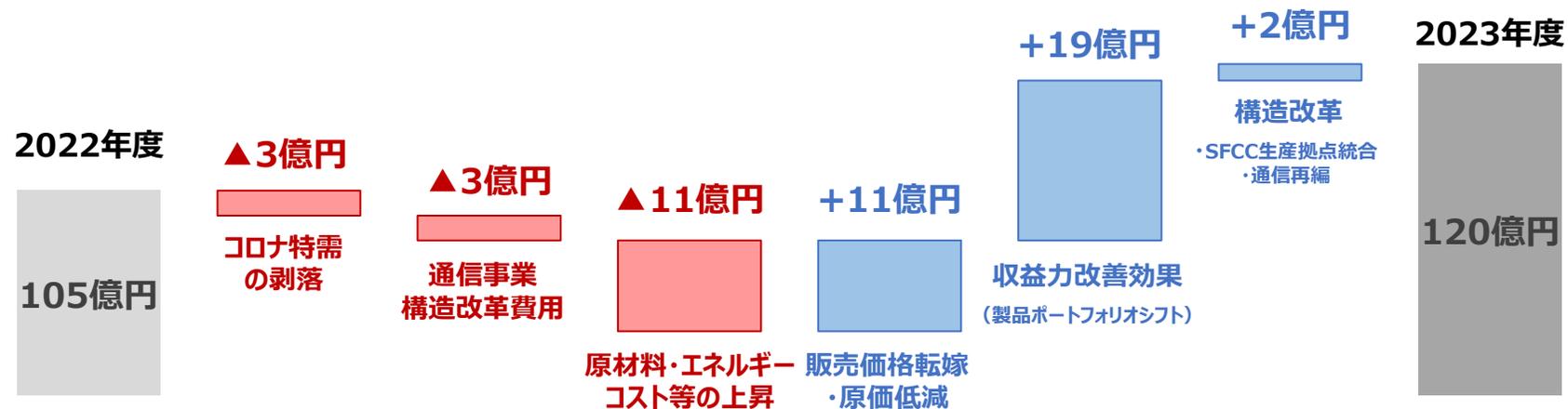


2023年度 通期 増減要因

売上高増減要因



営業利益増減要因



【増減要因】

1. 売上高

産業機械向け需要低迷およびコロナ特需の剥落も、**建設向けおよび電力分野の好調**と銅価上昇により**増収**の見込み。

2. 営業利益

原材料・エネルギーコスト等の上昇を販売価格転嫁・原価低減でカバー。通信事業の構造改革に伴う一時的損失や、ICT事業の収益貢献本格化が遅延も、**各種収益改善効果**により**増益**見込み。

セグメント別通期計画の修正

建設および電力関連事業における期初想定を上回る好調な業績により、**通期利益計画は上方修正**。

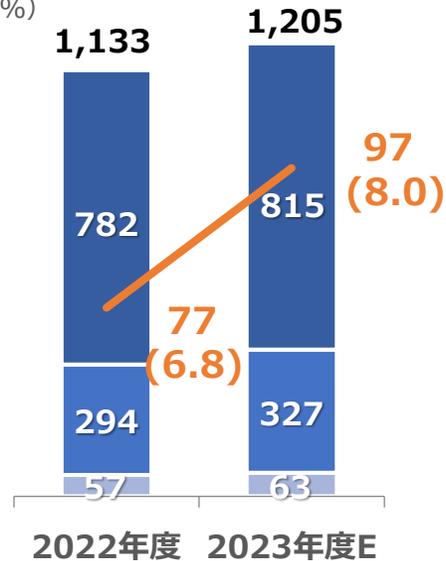
(単位：億円)		2023年度 3Q実績	2023年度 通期計画 (修正前)	2023年度 通期計画 (修正後)	増 減
エネルギー・インフラ事業	売上高	895	1,200	1,205	5
	営業利益	76	86	97	11
	営業利益率(%)	8.5%	7.2%	8.0%	0.8%
電装・コンポーネンツ事業	売上高	424	600	570	▲30
	営業利益	14	18	19	1
	営業利益率(%)	3.3%	3.0%	3.3%	0.3%
通信・産業用デバイス事業	売上高	235	305	305	0
	営業利益	10	18	15	▲3
	営業利益率(%)	4.1%	5.9%	4.9%	▲1.0%

2023年度 セグメント別業績計画

エネルギー・インフラ事業

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



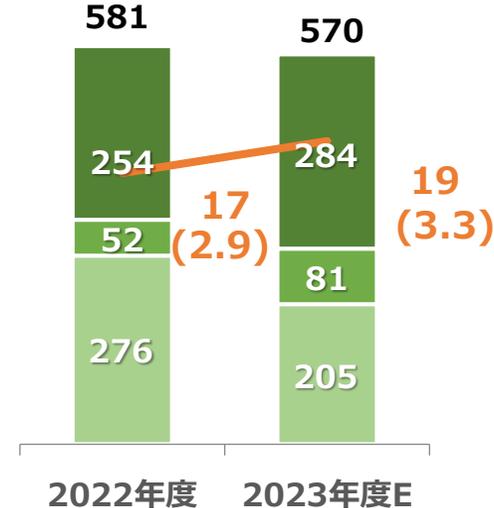
銅価影響：売上高21億円増

- + 要因
- 建設関連の製販事業統合による収益改善
 - SICONEX®の増産投資による売上貢献

電装・コンポーネンツ事業

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



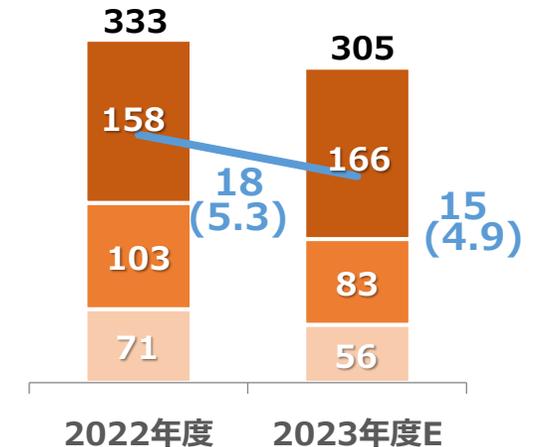
銅価影響：売上高15億円増

- + 要因
- xEV向け高機能製品の下期一部回復
 - 重電向け需要堅調
- 要因
- xEV向け高機能製品の上期調整局面

通信・産業用デバイス事業

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



銅価影響：売上高2億円増

- + 要因
- 通信ケーブル生産拠点統合効果の最大化
 - FLANTEC®（建設・車載向け）好調
- 要因
- 中国の景気悪化と国内家電需要の低迷

2. 電装・コンポーネンツ事業の今後の成長戦略

3Q進捗と通期計画達成に向けた取り組み

通期計画に対する3Q進捗

- + 要因
 - xEV向け製品は一部需要回復
 - 重電向け一般汎用製品は引き続き堅調
- 要因
 - 産業機械向け一般汎用製品は低調
- 4Q見通し
 - xEV向け高機能製品（ヒータ線等）の需要が北米を中心に堅調

売上高
進捗率
74.4%



営業利益
進捗率
74.2%

通期計画達成に向けた取り組み

◆ xEV化の加速に伴い、熱マネジメントの必要性からヒータ線需要が増大
将来、1台2席から4席に増える需要を見越し対応



熱源のない xEV車では、ヒータ線によりバッテリー消費量20%削減に...

◆ xEV市場の高機能巻線の需要回復に備え、生産革新ライン（低コスト+高環境性能）を導入

MI

高速焼付炉対応の
ワニスの開発

PI

最適製造条件の模索による
生産性・品質の最大効率化



線速
3倍

CO₂排出量
57%削減

エネルギー効率
2倍以上

設備導入コスト
25%削減

利益率改善
効果 2倍

電装・コンポーネンツ事業をとりまく今後の事業環境と市場動向

- **世界中でEV化政策が実施**
2030年時点世界約4割
比率、BEV 8割PHEV2割
エンジンや変速部品減少も
電池、モータ、半導体は増加

駆動用モータ販売数量
'30/'21 CAGR 22%

- 電動化に伴い、
熱マネジメントの必要性から
ヒータ線需要が増大

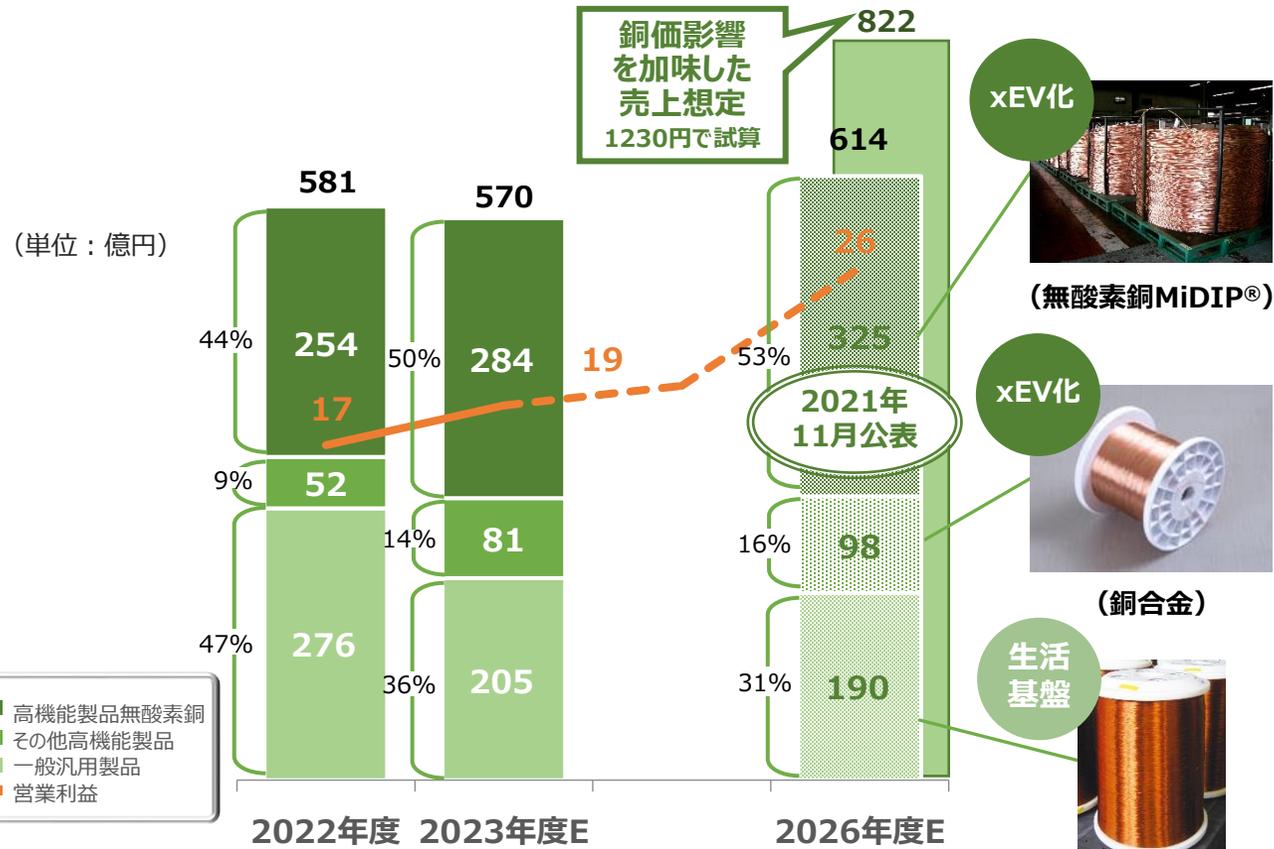


- **2030年の搭載率約8割に**
レベル3は高級EV車種を
中心に市場形成可能性
「ロジック半導体」や「画像セン
サー半導体」の需要が増加

自動車電装部品の市場動向

半導体不足は2024年に解消し、
地球環境や安全性への関心の高
まりによる電気自動車・自動運転
へのシフトを背景に、自動車用電
子機器市場は成長すると見込む

中期経営計画の進捗と今後の見通し



営業利益率	2.9%	3.3%※	—
銅建値	1,209円/kg	1230円/kg※	870円/kg※
設備投資額	10億円	18億円※		FY22-26 累計 66億円※

※計画値

業績の進捗

- ① 高付加価値製品の構成比拡大
- ② 製品ポートフォリオシフトによる利益率の拡大
- ③ 利益額は中計の計画に沿って順調に増加

今後の事業の見通し

- ① xEV化の加速による当社製品の**使用量・商機の増加**
- ② 半導体分野製品群の市場拡大による**商機増加**
- ③ 自動車以外のモビリティ電動化促進による**商機増加**
- ④ 資材（銅、樹脂）価格のさらなる高騰

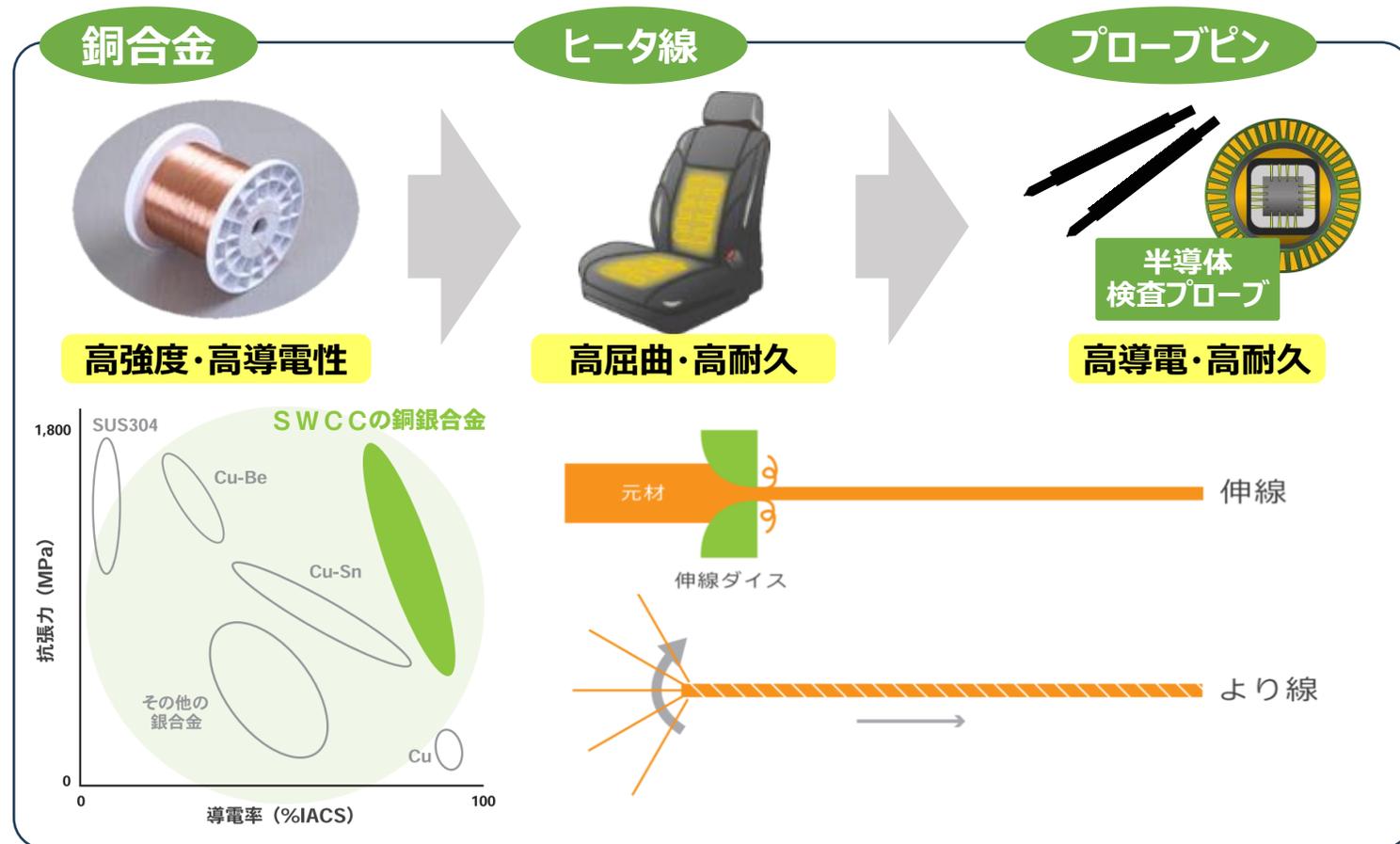
高付加価値製品へのポジショニングシフトによる利益拡大施策

当社の戦略製品およびコア技術を生かした高付加価値製品へのポジショニングシフトを実施



当社コア製品×技術のビジネス展開①

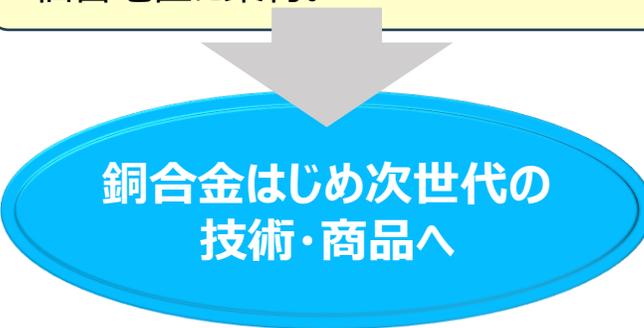
銅合金開発のノウハウを活かし、極細サイズでの高強度・高導電性材料を開発。さらに、高強度の素材を撚る高い技術の確立によりヒータ線へとビジネス展開。加えて更なる強度アップと整直性を付与しプローブピンを開発。



SWCC × 東北大学 「高機能金属共創研究所」を設置

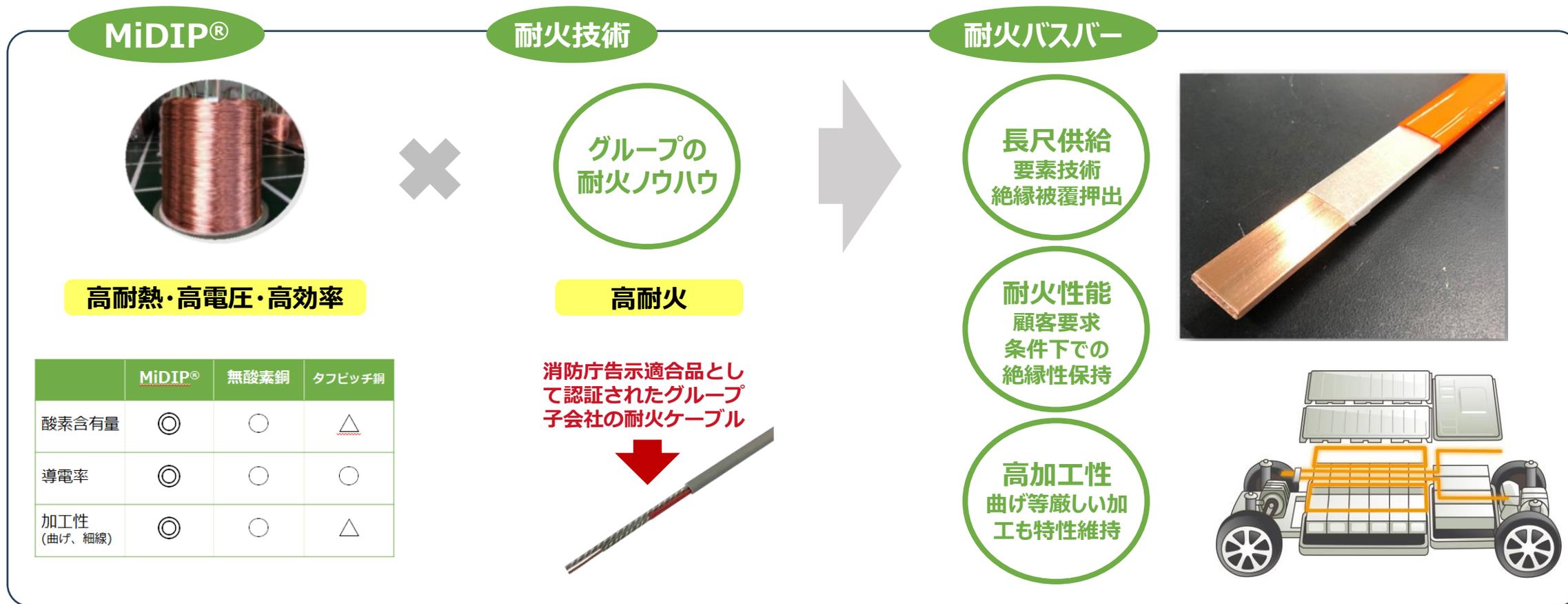


東北大学での基礎研究、SWCCでの製品開発・製造までのプロセスを仙台地区に集約。



当社コア製品×技術のビジネス展開②

高機能無酸素銅MiDIP®にグループの耐火技術ノウハウを加味して耐火仕様被覆付平角巻線（耐火バスバー）を開発。2026年度以降に発売されるxEVへの実装を目指す。



巻線事業の競争優位性を高める高効率設備の導入

xEV市場の高機能巻線の需要回復に備え、生産革新ライン（低コスト+ 高環境性能）を中計期間に11ライン導入

マテリアルズ・インフォマティクス

高速焼付炉対応のワニスの開発

プロセス・インフォマティクス

最適製造条件の模索による
生産性・品質の最大効率化

特徴1

線速 3 倍

特徴2

CO₂排出量 57%削減

特徴3

エネルギー効率 2倍以上

特徴4

設備導入コスト 25%削減

利益率
改善効果
2 倍

3 台導入済
今後 8 台導入



成長戦略を加速するモビリティ開発センターの取り組み

上期成果



走行中非接触給電
日本初！
公道実証試験用
コイル提供



**半導体検査用
プローブピン**
納入開始
2023.9

車載バスバー
試作・展示会出品



BEV用平角線
試作

2023年1Q

2Q

今後の予定

走行中非接触給電
・リジナルコイルユニット製作



**半導体検査用
プローブピン**
2030年量産計画

モビリティ関連
・量産ライン構築
2027年量産計画

BEV用平角線
2027年量産計画

車載耐火バスバー
2027年量産計画



3~4Q

2024年

2025年

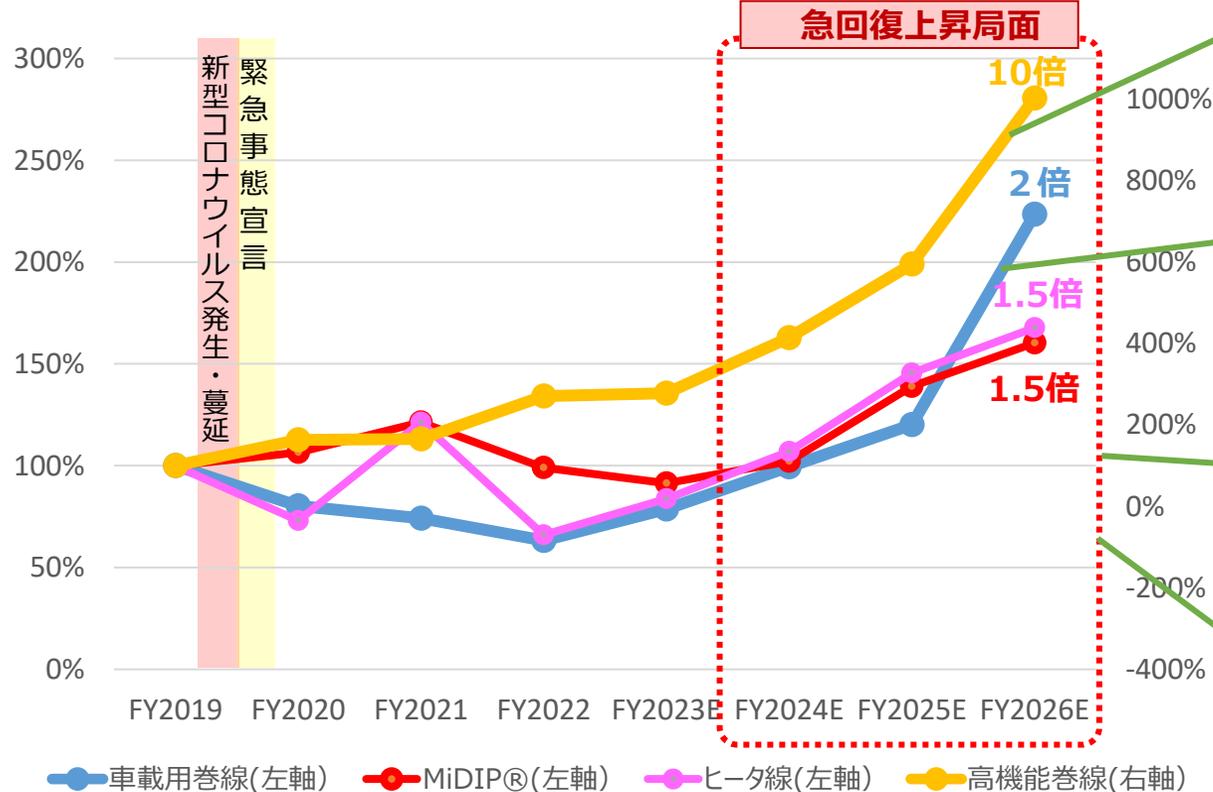
2026年

2027年

追い風の利益貢献のタイミング（中計ローリングに向けたポイント）

高機能製品カテゴリー別出荷量推移

（コロナ前を100として試算）



- 1 高機能巻線の欧州向け需要は拡大傾向。
生産能力増強投資を**2023年度より開始**。
- 2 xEV化の加速に伴うヒータ線需要は**2025年度以降急拡大を見込む**。
- 3 半導体市場（プローブピン）への参入を**2023年度より開始**。9月台湾上市。今後欧州向けを予定。
- 4 モビリティ開発センター設立による**高付加価値製品群の開発促進**とIPランドスケープ活用による知財戦略の展開。



SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。